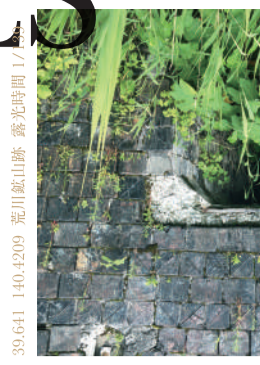


# 鉱山の露光 MINE EXPOSURES

## 佐藤朋子 TOMOKO SATO

2019年8月30日金—11月4日月祝 9:00—18:00  
入場無料/閉館日：9月14日【土】、15日【日】  
会場：秋田公立美術大学ギャラリー BIYONG POINT (ピョンポイント)  
(秋田市八橋南1-1-3 CNA秋田ケーブルテレビ社屋内)



39.641 140.4209 荒川鉱山跡 露光時間 1/139



40.3284 140.5316 花岡鉱山跡 露光時間 1/120



「The Haunted House」のスクリーンショット。デジタルアート作品のスクリーンショット。背景には日本語の文字が重なり合っている。



Quoted from a book "Hanaoka Monogatari" (1981)

佐藤朋子 Tomoko Sato  
1990年長野県生まれ、神奈川県在住。2018年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。レクチャーの形式を用いた「語り」の実践に取り組む。史実の調査過程から浮かび上がる事象を複眼的につなぎ合わせ、フィクションとドキュメントを行き来する物語を構築する。日本が辿ったいびつな近代化への道のりや、大文字の歴史からこぼれ落ちてしまった歴史の複数性への関心、各地に残された伝説や痕跡などへの興味を糸口にして作品を制作している。  
ウェブサイト：<http://tomokosato.org/>

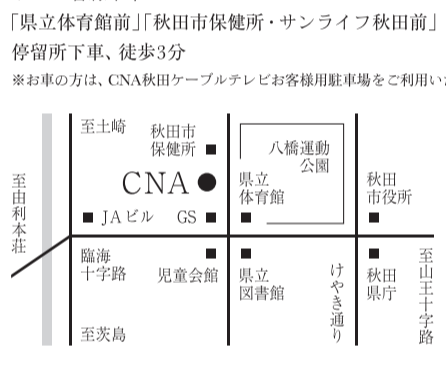
- 主な展示・活動歴
- 2019 「ふたりの円谷」上演, SHIBAURA HOUSE, 東京
  - 2019 「103系統のケンタウロス」上映, 渋谷ユーロライブ, 東京
  - 2019 「103系統のケンタウロス」展示, Gallery Saitou Fine Arts, 神奈川
  - 2018 「瓦礫と塔」上演, 浅草公会堂, 東京
  - 2018 「しろきつね、隠された歌」上演, BankART Studio NYK, 神奈川

Born in Nagano in 1990. Lives and works in Kanagawa. Sato obtained her Master of Fine Arts in Film and New Media from Tokyo University of the Arts in 2018. Making use of a lecture format, Sato's practice focuses on narratives. By linking issues that arise in the process of investigating historical facts in a multifaceted way, Sato constructs a story that interweaves fiction and documentary. Sato's works are the product of her interest in Japan's pursuit of a distorted form of modernization and the plurality conveyed by events that have fallen through the cracks of History with a capital H as well as her attraction to legends and ruins that survive in various places.

- Selected Exhibitions and Activities: 2019 'The Double Tsuburaya', Performance, SHIBAURA HOUSE, Tokyo; 2019 'Centaurus on Route 103', Screening, Shibuya Euro Live, Tokyo; 2019 'Centaurus on Route 103', Exhibition, Gallery Saitou Fine Arts, Kanagawa; 2018 'The Debris and Tower', Performance, Asakusa Public Hall, Tokyo; 2018 'Shiro-Kitsune, The Hidden Song', Performance, BankART Studio NYK, Kanagawa

関連イベント  
[ギャラリーツアー+オープニングパーティー]  
日時：8月30日(金) 18:00-20:00  
会場：BIYONG POINT (ピョンポイント)  
[レクチャーパフォーマンス+トーク]  
トークゲスト：服部浩之(秋田公立美術大学 准教授)  
日時：10月20日(日) 18:00-20:00  
会場：BIYONG POINT (ピョンポイント)

会場アクセス  
秋田公立美術大学ギャラリーBIYONG POINT (ピョンポイント)  
〒010-0976 秋田市八橋南1-1-3 CNA秋田ケーブルテレビ社屋内  
秋田駅西口バスターミナルより、秋田中央交通バス 2・3・5番線乗車  
「県立体育館前」「秋田市保健所・サンライフ秋田前」停留所下車、徒歩3分  
※お車の方は、CNA秋田ケーブルテレビお客様駐車場をご利用いただけます。



お問い合わせ：NPO法人アーツセンターあきた  
〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学アトリエももさだ内  
Tel: 018-888-8137 E-mail: info@artscenter-akita.jp  
Web: <https://www.artscenter-akita.jp>



40.3398 140.7389 小坂鉱山跡 露光時間 1/457



Quoted from a cover for Franz Eckert's notes of the new national anthem (Curt Neveu, 1880)

「The Haunted House」のスクリーンショット。デジタルアート作品のスクリーンショット。背景には日本語の文字が重なり合っている。



39.7287 140.1357 秋田大学鉱業博物館 露光時間 1/33

過去作品  
「しろきつね、隠された歌」  
'Shiro-Kitsune, The Hidden Song'  
レクチャーパフォーマンス  
Lecture Performance / 2018  
Photo by Keita Otsuka



狐の伝説「信太妻」をレクチャーパフォーマンスで語り直す。美術行政家、思想家として知られる岡倉覚三(天心)は、1913年ボストンオペラハウスから依頼され、「信太妻」を原作に「The White Fox」というオペラの台本を書き上げるが、未完に終わる。隠されてきた岡倉によるもう一つのオペラの台本、「しろきつね」にリサーチ中に出会ったという設定で、「しろきつね」の中にあつた狐の歌についての解説と、その歌の重要性について検証する。長野県で「狐につままれた話」聞いたことからはじまったプロジェクト。狐がかつて担っていたものや、狐がいなくなった現在と私たちを再考する。

「103系統のケンタウロス」  
'Centaurus on Route 103'  
音声ガイド、冊子  
Audio guide, brochure / 2019  
Photo by Nozomi Sawamoto



鑑賞者が実際に横浜市営バス(103系統)に乗車し、横浜市内にある旧根岸競馬場第一等観覧席を訪れる、オーディオツアー型の作品。鑑賞者は乗車中に、旧根岸競馬場にまつわる語り(レクチャー)をオーディオプレイヤーで視聴しながら、手元の冊子に掲載された画像を参照する。黄金町付近のバス停を出発し、丘の上にある終点の根岸台まで向かう約20分の体験。旧根岸競馬場第一等観覧席は幕末からの歴史を持ち、戦時中は日本海軍、戦後はGHQの印刷工場という時代を経て、今も横浜の丘の上に廃墟となって建つ。数年前には、隣接する米軍居住区の返還が合意され、土地の再利用の音が上がり始めている。本レクチャーでは、この土地に建てるシンボルのモデル案を5つ提案した。鑑賞者は実際に現地に向かうバスに乗りながら、どのモデルが採択されるべきかを思考する。



# MINE EXPOSURES

## TOMOKO SATO

「The Haunted House」のスクリーンショット。デジタルアート作品のスクリーンショット。背景には日本語の文字が重なり合っている。



39.641 140.4209 荒川鉱山跡 露光時間 1/139



39.7287 140.1357 秋田大学鉱業博物館 露光時間 1/33

主催：秋田公立美術大学、NPO法人アーツセンターあきた  
協力：CNA秋田ケーブルテレビ、東京藝術大学大学院映像研究科、RAI Association、和信信太郎  
出演、映像資料協力：片岡一郎(活動写真真士)  
映像制作：佐藤真実(撮影・録音・編集)、須賀亮平(撮影)  
グラフィックデザイン：山田悠太郎  
展示設計・コミュニケーション：山形一生  
撮影協力：康楽館  
リサーチ協力：碓井千鶴、絵夢人倶楽部  
秋田大学鉱業博物館、ワツタ映画社  
助産：秋田県芸術文化振興基金助成事業  
ウェブサイト：<https://www.artscenter-akita.jp/archives/5747>

# 鉾山の露光 MINE EXPOSURES 佐藤朋子 TOMOKO SATO

サークス団の員で、「胡蝶の舞」という、飛び道具を得意としていました。なわばし一つを軸を生かした舞にみだり、手から東楽館と同じような集会所兼娯楽施設でした。鉾山における戦争の影の一部と化していました。2つの展示室では、かつて異界からの訪問者を映し出した、ハコバロを終えた無声映画が、戦争を映し出した時代を紹介し、その戦争によって鉾山に起きた事件について解説していきます。そして、自然にも、戦争が激化する。無声映画は音付きのトーキー映画の誕生によって、その舞台から次第に姿を消すくなり、娯楽館のような集会所兼娯楽施設もなくなっています。そのような当時における変化の様子が展示され、無声映画と鉾山が共に迎えてきた時代とその後を私たちに示します。

その後も同じく、無声映画を見てきたといふ。無声映画は19世紀末に日本に映画が輸入されてから、50年ほど制作されました。活動写真上とやう存在が側になりました。活動写真とは、説明者ども何はれ、かつて日本に数千人がいたといわれている語り手です。鉾山無声映画にセリフやトーキーをライオでつけていき、異国の文化や言語、声をつけ、説明をします。活動写真士が、善く台本や語りは、紳士それぞれがオリソナエでつくられていたの、同じ映画の土曜でも、紳士によって違う物語を持つのです。

今日は現役の活動写真士の片岡 朋子さんにお願いいたします。実際に活動写真士の語り付きで、無声映画をみていきたいとおもいます。片岡さん、宜しくお願い致します。

片岡さん、ありがとうございます。それでは、最後の「カリカリ屋」の展示室について解説します。

本作は、1920年にドイツで制作されました。制作には当時の精神医療の関心の高まりが背景にあり、精神病院に入院する主人公の回想が軸になっている映画です。映画内では、狂った精神科医と、彼に操られた愛選病の患者が、連続殺人事件を起こします。これまでみてきたように、異界からの訪問者や、異国での戦争を映し出した無声映画ですが、この頃は個人の変態世界を映し出しています。

ドイツで、アメリカでは、アメリカが3月以上続かないと、フランスと叫ぶ怪鳥が夜盗に現れます。彼らの目は緑色に怪しく光り、けたまし、声とともに狭いからて入るのです。この怪鳥は先述した戯言やソレや毒蜘蛛と同じく暗闇からやってきますが、睡眠をとっていないときだけ現れると、私たちの妄想なのか、現実にあられた異界からの訪問者なのか、定めてはありませぬ。そして現実の鉾山、花園鉾山には、19世紀末に米目するものの、戦年後に精神を病み、この地で生かなくなったドイツ人がいます。彼女は



Quoted from a book "Papierstimmentheater aus Japan (Paper Butterflies from Japan)" (Curt Nevo, 1988)



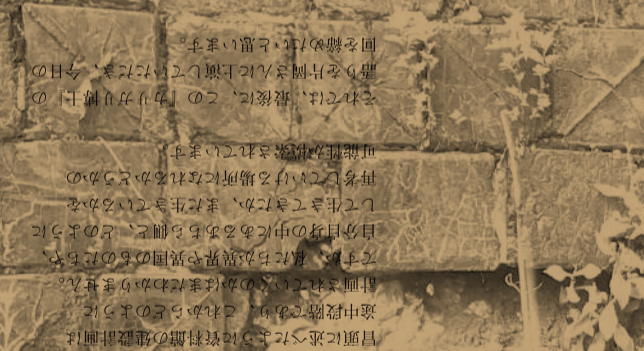
Quoted from a book "Papierstimmentheater aus Japan (Paper Butterflies from Japan)" (Curt Nevo, 1988)



39.7287 140.1357 秋田大学鉱業博物館 露光時間 1/33



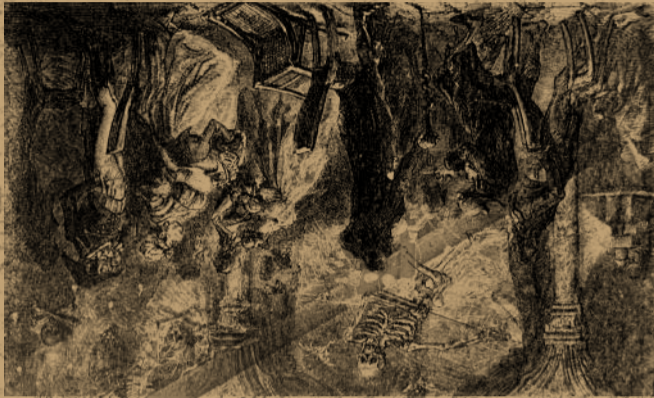
Quoted from a page of William's Geographies, "1720 book Physics Elementa Mathematica with Jan van Musschenbroek's magic lantern photographing a mousetrap."



Quoted from a book "Papierstimmentheater aus Japan (Paper Butterflies from Japan)" (Curt Nevo, 1988)



Quoted from an interpretation of Robertson's Fantasmagorie from F. Maron's L'Opaque (1867)



Quoted from an interpretation of Robertson's Fantasmagorie from F. Maron's L'Opaque (1867)

# 鉾山の露光 MINE EXPOSURES 佐藤朋子 TOMOKO SATO

2019年8月30日金—11月4日祝 9:00—18:00  
入場無料/閉館日：9月14日[土]、15日[日]  
会場：秋田公立美術大学ギャラリー-BIYONG POINT (ビヨングポイント)  
(秋田市八橋南1-1-3 GNA秋田センタービル2F社屋内)

この度、秋田公立美術大学ギャラリー-BIYONG POINT (ビヨングポイント)では、フーチャストの佐藤朋子による個展「MINE EXPOSURES / 鉾山の露光」を開催します。2018年度「BIYONG POINT 企画公募」として採択された本展は、鉾山の町として栄えた秋田県の東北エリアをめぐってサーチシ、伝統の表現手法でもあるレクチャー形式による「語り」を用いたパフォーミングとして、展示空間に再構築する新作を発表します。

閉山した鉾山の廃坑道から、50年間以上わたって放置された無声映画のフィルムが見つかった。現在、このフィルムの発見を契機に、鉾山と映画に関する資料館の建設が計画されている。本展覧会では、関連資料や解説映像を展示し、資料館の全貌を明らかにしていく。解説映像では、活動写真士・片岡一郎による語りを通して、実際に無声映画を上映しながら、レクチャーパフォーマンスを公演する。実在の無声映画に向けられる活動弁士の「語り」と、鉾山に残存する出来事の特徴や、伝説に関する「語り」の2つのパフォーマンスから、異国・異界からの来訪者が共存していた鉾山を物語ることと立ち現す。(佐藤朋子)